

特集

## 2016年1月27日 新春トップセミナー

### 開会挨拶

生産技術振興協会 理事長 伊東 一良

本日は生産技術振興協会主催の「トップマネージャーのための新春セミナー」に多数の方々にご参加いただき、誠にありがとうございます。生産技術振興協会は昭和24年に発足した長い歴史を持った協会です。主に大阪大学の先生方と連携し、大阪地域の産学連携を通して産業振興に寄与してまいりました。「生産と技術」という雑誌を年4回、68年間の長きにわたり発行しており、その編集委員は大阪大学の先生方によって構成されています。それ以外に当協会では各種のセミナーを開催するなど、情報交換を行っております。また、学生が海外で研究発表する際のサポートにも取り組んでおります。最近「フレンドシップ・ミーティング」といって、中小・中堅企業の皆様方と連携し大阪大学の先生方とが一緒になってフレンドシップをつかみ、現場に即した研究開発につなげるという、役に立つ情報交換の場を設定しております。

本日の新春セミナーでは、大阪大学大学院医学系研究科長の澤芳樹先生による「中之島アカデミックスマートシティ構想～未来医療健康都市・関西に向けて～」と題する講演をしていただきます。また、田辺三菱製薬株式会社代表取締役会長の土屋裕弘様からは、「健康・医療産業の育成に向けて～関西における産官学連携への期待～」と題した講演をしていただきます。引き続きまして、当協会の更家悠介常務理事のコーディネートによるパネルディスカッションを企画しておりますので、ぜひお楽しみいただきたいと思っております。

大阪といえば「薬のまち」という認識がございます。道修町という町もございますし、適塾という医学・蘭学において日本で初めて中心を成した経緯もございます。長い歴史と伝統を持っており、この大



理事長 伊東 一良氏

阪から新しい医療産業が盛り上がってくるのは当然のことだと思います。しかし、「新しい葡萄酒は、新しい革袋に入れよ」という言葉が聖書に書かれています。その深い意味が私には分からないのですが、新しい革袋に対して古い革袋というのは、たぶん古いしきたりや慣習などが、場合によっては薬に対する抵抗勢力のようなものになるのかもしれませんが。そのような意味で、ここ大阪で再び日本の中心になるような活躍がなされ、もしくは世界の中心に大阪がなっていくことを考える時には、政治的な枠組みの中の新しい革袋として、たぶん「大阪都構想」というものがあるのかと私は考えています。それと並んで、澤先生から本日お話しいただく「中之島アカデミックスマートシティ構想」が、新しい医療に関する新しい革袋になるのではないかと期待しております。

お二人の講演とパネルディスカッションの後に、新春交歓会を予定しておりますので、本日のセミナーでの質問等がございましたら、交歓会の席で講演者の先生方に直接コンタクトをとるのもよいのではないかと思います。本日はどうもありがとうございます。